

ロックチャレンジを取り入れた場合

- 学校生活の充実
- みんなと喜びを分かち合う
- 人々の考えは実現する

文部科学省の協力、意欲

- 新しい教育法として適応させるため
- 学校の授業にロックチャレンジを取り入れる
- 学校のどのような分類にいれるのか

学校の協力、意欲

- 学校が参加してくれないといけない

学校とロックチャレンジの連携性

- 練習する時間がとれない
- 学生にロックチャレンジに参加できる時間はあるのか
- 時間をつくり参加する
- 日本の高校生は、海外と違い忙しいので（受験などで）大学生はどうか
- 高校の運動部は忙しいので文化部に協力してもらう

コミュニケーション

- 少子化で人とのコミュニケーションが低迷しているので、集団行動の大切さを知れる

学校と運営側（コミュニケーションによって）

- 主催者と学校の先生と密な関係を保つ

社会への影響

- ロックチャレンジを行うに当たって学生以外の人たちへのメリットは何？
- 社会貢献のため

生徒と運営側

- 演者と仲良くする

問題解決

- ロックチャレンジを通じてみんなで解決していく

場所を与える

- 子供たちに表現する機会と場所をあたえる

生徒と精神の向上

- 人々の協力精神はたかくなる

保護者の評価

- 保護者、学生からの評価がとてもよい

経済効果（経済に与える影響）

- ロックチャレンジをおこなうにあたって、経済効果はどのくらいあるのか

社会的適応能力の向上

- 視野が広がる
- 想像力、責任が養われる
- 責任感が備わり、社会適応能力があがる
- 他クラブ（部活など）だけではなく、ロックチャレンジという、また違った空気を感じることができる

家庭に与える影響

- 親と子供の交流機会が増える
- 精神がきたえられてから親に対する反抗期の対策になる
- 子供たちの自分で考え、自発的に行動する能力を養う